高木基金 助成募集のおしらせ

高木仁三郎市民科学基金は「市民科学」を志す市民研究者・グループの調査研究活動や研修を助成します。

高木仁三郎市民科学基金は、生涯をかけて、原子力時代の一日も早い終焉と、「市民科学」に力を尽くした 故高木仁三郎の遺志に基づき、「市民科学者」を志す市民やグループへの助成を行います。
「市民科学者」とは、大学や研究所などに籍を置く、狭い意味の職業研究者や、大学生・大学院生に限らず、広く一般の市民も含まれるとの考えに立ち、助成応募者に資格制限は設けていません。
「市民科学」は、現代の科学技術が、市民の生命や安全、地球環境を脅かすに至っているとの危機感と、既存の科学者や研究者が、このような問題に正面から取り組んできたとは言えず、社会的な責任を十分果たしていないという問題意識から出発しています。
さまざまな問題の現場から、問題意識を持つ市民が自ら学び、専門性を高め、問題の所在を解明し、解決に向かって主体的に関与し、未来を切り拓いていくことが重要と考えます。

具体的な助成応募の方法などについては、次ページ以降をご覧下さい。
過去に助成を受けた研究の概要などについては、高木基金のホームページでご覧下さい。

■ 助成の分類と募集の概要 ■

分類	助成内容	募集総額	募集時期	応募方法
I	国内の個人・グループへの調査研究助成	**650** 万円	**2006/11/1 ～12/10(日)**	→ 4頁【1】
II	国内の個人への研修奨励	**150** 万円	随時受付	→ 4頁【2】
III	アジアの個人・グループへの調査研究助成	合計 **200** 万円	随時受付	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを ご覧下さい
IV	アジアの個人への研修奨励			

【注】「国内の個人・グループ」とは、国内に居住し、日本語を使用する方を想定しています。選考の過程で日本語での書類提出・口頭発表等をしていただく都合によるもので、国籍を制限するものではありません。また、「アジアの個人・グループ」についても国籍等を厳密に制限するものではありませんので、ご不明の場合は、事務局にお問い合わせ下さい。

特定非営利活動法人　高木仁三郎市民科学基金

〒160-0004　東京都新宿区四谷 1-21　戸田ビル４階
事務局携帯 070-5074-5985　TEL･FAX 03-3358-7064
E-mail　info@takagifund.org　URL　http://www.takagifund.org

１．　高木仁三郎市民科学基金の設立趣意

高木仁三郎市民科学基金(高木基金)は、2000 年 10 月、62 歳でこの世を去った市民科学者、高木仁三郎の遺志により設立されました。高木仁三郎は自分の遺産を元に基金を設立し、彼の生き方に共鳴する多くの人から広く寄付を募り、次の時代の「市民科学者」をめざす個人やグループに対し資金面での奨励・育成を行ってほしいとの遺言を残しました。

２．　高木仁三郎市民科学基金の目的

高木基金の目的は、現代科学がもたらす問題や脅威に対して、専門的考察に裏付けられた批判を行える「市民科学者」を育成・支援することです。

未来を切り拓く科学は、政府や産業界の出資と管理のもとで進められる科学者の職業的営みからではなく、真の公共性、公益性を体現した市民の自発的活動の中からこそ生まれてくるはずだという期待を込めて、高木基金では、ＮＰＯ・ＮＧＯや市民グループで活動しながら「市民科学者」をめざす人を積極的に応援したいと考えます。

高木仁三郎の生涯(1938－2000)
…脱原発の核化学者･市民科学者として…

高木仁三郎は1945年 小学1年生で敗戦を体験しました。彼は少年時代、日本人の思考や行動の非科学性が、あの無謀な戦争へと日本を駆り立てたという主張に、子供心に納得し、科学に未来の夢を描き、長じて核化学を専攻しました。

日本の原子力産業の黎明期にその開発事業の研究所に入り、後に大学で研究に従事して、62年の人生の40年以上を「核」と共に歩みました。最初の三分の一は体制内研究者、残り三分の二は独立した批判を行う市民科学者として活動しました。1973年に35歳で大学を辞し、一市民として「自前（市民）の科学」をめざし始めました。

原子力利用はその出発から民主主義社会とは相容れないこと、放射能制御は人間の能力を超えることを指摘し、原子力発電を、とりわけプルトニウムの利用を真っ向から鋭く批判しました。原子力の情報が、政府、原子力産業・電力会社等の推進側に独占されていることを批判し、その公開を強く求めました。市民の側から、科学的裏付けに基づいて原子力の危険性をわかりやすく解説し、市民が本当に必要とする情報を提供する非営利組織「原子力資料情報室」の設立・運営に力を尽くした彼は、現在の巨大科学のあり方を根本から批判しました。

このような彼の活動に対し「プルトニウムの危険性を世界の人々に知らしめ、また情報公開を政府に迫って一定の効果を上げるなど、市民の立場にたった科学者として功績があった」として、1997年に「もうひとつのノーベル賞」と呼ばれるライト・ライブリフッド賞を受賞しました。

その賞金をもとに市民科学者を育てる仕事に打ち込みたいと準備を始めた矢先に大腸癌が発覚し、癌の進行は早く、彼は活動を続けることが不可能になりました。彼は核化学者と市民のはざまに引き裂かれ悩みながらも、核のない世の中の実現にその生涯を捧げ行動し続けました。

人から人へ、世代から世代へ、あきらめずに、同じ志を持続すること。それが理想を現実に変える力となり、現実を変えることができる、と高木仁三郎は信じていました。彼は、その志を持続させる原動力が「希望」だと考えました。

「生きる意欲は明日への希望から生まれてくる。反原発というのは、何かに反対したいという欲求でなく、よりよく生きたいという意欲と希望の表現である」(岩波新書『市民科学者として生きる』より)との言葉に、高木仁三郎の思いが凝縮されています。

3.　市民科学とは

市民科学の課題は、高木仁三郎によれば、「未来への希望に基づいて科学を方向づけ、持続可能な未来を築くための構想を提示し、人々の心に希望の種を播き、組織し、変革への流れを生むこと」です。市民科学は、市民社会が実際に直面する不安や問題から出発し、その成果も市民の評価に委ねられます。

市民科学者という表現には、学術研究を職業とする者だけが科学者なのではなく、市民が科学知識と批判力を自分たちのものにする必要があるという考えが込められています。市民科学は、市民の立場に立ちつつ、市民の知を、専門性を持って市民の側から組織していくことをめざします。科学の暴走をくい止め得るのは、まさにそうした「カウンター・エキスパート」としての市民に他ならないでしょう。

地球市民としての自覚のもと、科学的知識と考察に裏付けられた構想力と想像力を備え、独立した批判を行える人が、市民科学者です。

市民科学者には、次のような役割が期待されます。

1)　現代の科学技術が、人々の生存と地球環境への脅威となっていることを認識し、市民と不安を共有する立場からこれを批判し、対抗的な評価を提起すること。
何が脅威であるかを明らかにし、それを取り除くための調査・研究を進めること。

2)　自ら市民として、常に生活者の感覚や視線でものを見ることに基盤におきながら、科学技術の問題にアプローチすること。

3)　最終的な政策決定者は市民であるという立場から、市民との密接な相互作用を通して、市民の判断材料となる情報を提供し続けること。
国家や産業側の科学技術情報を批判的に解読し、その情報がどのような意味や影響を持つのかを、市民に理解可能な形で伝えること。

4)　現代における科学技術の選択が、将来の世代にどのような負担をもたらすかを常に吟味し、世代間倫理に基づく問題提起を行うこと。

4．助成対象にふさわしい調査研究・研修とは

高木基金が助成する調査研究・研修は、前記の市民科学の実践として、次の要件を満たすことが望まれます。

- 市民社会や地球環境の脅威となる科学技術や、それに関わる社会政策の問題点等を追究するもの。
- 専門性に裏付けされた想像力と構想力を持ち、調査研究・研修の方法論や実施計画、予算などが合理的であるもの。
- 調査研究・研修の成果を、市民社会に還元する方法や、政策転換を求める道筋などを具体的に展望しているもの。
- 今回の調査研究・研修のみにとどまらず、将来にわたって、市民科学者を目指して努力していく意志を持っているもの。

なお、限られた財源の中で、市民科学にふさわしい調査研究・研修を重点的に助成するため、**次のような申請は助成対象としない場合がありますのでご注意下さい。**

・公的な助成金や企業などからの支援が十分得られると思われる内容・水準のもの
・相当の規模や実績を持ち、独自の資金調達で十分活動ができる団体からのもの
・外部の研究者への委託研究を主体とするもの

高木仁三郎市民科学基金 助成応募方法

【１】国内の個人・グループへの調査研究助成

対象となる調査研究	・市民科学にふさわしい調査研究や、その調査研究と密接に関係するワークショップ・シンポジウムなどの開催費、調査研究の成果発表にかかわる諸費用等を助成するものです。 ・市民科学にふさわしいかどうかの考え方は、別記（3 頁下段）をよくお読み下さい。
対　象　者	・資格・年令等の制限はありません。一般の市民や市民グループも対象となります。
助 成 金 額	・１件あたりの金額は、200 万円を上限とします。
助成対象期間	・原則として 2007 年 4 月～2008 年 3 月の間に実施される調査研究を対象とします。
申込み方法	・高木基金ホームページから応募フォームをダウンロードし、必要事項を入力の上、出力した書面を郵送して下さい。同時に入力済みの応募フォームを電子メールで高木基金事務局へ送信して下さい。
募 集 期 間	・2006 年 11 月 1 日～12 月 10 日(日) 書面での発信(当日消印有効)を基準とし、電子メールのみの発信は認めません。
事前相談制度	・書面での応募前に、希望に応じて事務局が「事前相談」を受け付けます。調査研究の計画段階での相談にも応じますので、積極的にご利用下さい。
選考のながれ	・応募書類に基づく書類選考の結果を 2007 年 2 月 10 日頃までに応募者全員に通知します。 ・書類選考通過者（応募金額 50 万円以下の方を除く）には、2007 年 2 月下旬に都内で実施する公開プレゼンテーションに参加し、自らの調査研究計画を発表していただきます。 ・公開プレゼンテーションの内容を踏まえて助成者の最終決定を行い、2007 年 3 月上旬に助成先を発表します。

【２】国内の個人への研修奨励

対象となる研修	・「市民科学者」としての専門性を高め、実践経験を積むことを目的に、国内外の教育・研究機関、ＮＧＯなどでの研修や、実践的な活動に長期にわたって参加するための旅費・滞在費用等を助成するものです。 ・市民科学にふさわしいかどうかの考え方は、別記（3 頁下段）をよくお読み下さい。
対　象　者	・資格・年令等の制限はありません。大学生・大学院生などである必要もありません。
助 成 金 額	・１件あたりの金額は、200 万円を上限とします。
助成対象期間	・原則として 2007 年 4 月以降に実施される研修を対象とします。
申込み方法	・高木基金ホームページから応募フォームをダウンロードし、必要事項を入力の上、出力した書面を郵送して下さい。同時に入力済みの応募フォームを電子メールで高木基金事務局へ送信して下さい。
募集期間	・随時応募を受け付けます。 (予算等の都合で今年度の募集を終了する場合は、ホームページなどでお知らせします。)
事前相談制度	・書面での応募前に、希望に応じて事務局が「事前相談」を受け付けます。研修の計画段階での相談にも応じますので、積極的にご利用下さい。
選考のながれ	・書類選考の上、理事会が面接を行い、助成の可否を決定します。 ・書類選考の結果通知および面接の日程などについては、個別に応募者にお知らせします。

申込み・問い合わせ：　高木仁三郎市民科学基金　事務局　（菅波　完）
〒160-0004　東京都新宿区四谷 1-21 戸田ビル 4 階
E-mail　info@takagifund.org　携帯 070-5074-5985　TEL･FAX 03-3358-7064